

第2章 北区の現状と第2期大阪市北区地域福祉計画の検証

1 データに見る北区の現状

図表1 北区の現状データ

	項目	数値	24区中	大阪市平均	基準	出典
人口	人口総数(現在)	145,604人	6番目	115,569人	令和6年1月1日現在	大阪市推計人口
	人口総数(20年前)	96,761人	14番目	109,156人	平成16年1月1日現在	大阪市推計人口
	外国人登録人口	7,347人	9番目	7,176人	令和6年3月末現在	大阪市住民基本台帳人口・外国人登録人口
	昼間人口	420,354人	2番目	147,272人	令和2年10月1日現在	国勢調査
人口構成	年少人口(15歳未満)	13,771人	9番目	11,731人	令和6年1月1日現在	大阪市の推計人口(年齢別人口推計)
	老年人口(65歳以上)	25,912人	14番目	29,084人		
	年少人口(15歳未満)割合	9.5%	16番目	10.2%		
	老年人口(65歳以上)割合	17.8%	21番目	25.2%		
世帯構成	単独世帯率	63.7%	5番目	53.6%	令和2年10月1日現在	国勢調査
	高齢者のいる一般世帯のうち単独世帯率	31.40%	7番目	31.50%		
	一般世帯のうち母子・父子世帯	4.564	11番目	5.186		
	母子・父子世帯率	5.3%	22番目	8.5%		
各種手帳交付者	身体障がい者手帳	5,136人	15番目	5,626人	令和6年3月31日現在	区政概要
	療育手帳	954人	18番目	1,481人		
	精神障がい者保健福祉手帳	1,622人	14番目	2,123人		
保育所等	保育所数(小規模除く)	28施設	3番目	20施設		
	認定こども園数	5施設	13番目	5施設		
	保育所、認定こども園入所児数	2,802人	8番目	2,448人		
要介護認定者	総数	5,730人	16番目	7,850人	令和6年3月31日現在	介護保険統計資料
	要支援1・2	1,700人	16番目	2,368人		
	要介護1・2・3	2,616人	15番目	3,554人		
	要介護4・5	1,414人	15番目	1,928人		
	認知症高齢者等	1,682人	14番目	2,111人	令和6年4月1日現在	介護保険統計資料
	要介護認定者のうち日常生活自立度Ⅱ以上					

- 人口総数は145,604人(令和6年1月1日現在)。24区中では6番目に多い。
- 昼間人口※は、24区中では2番目に多い。
- 年少人口割合は、24区中では9番目で、老年人口割合は14番目である。
- 昼間人口は人口の3倍近くある都会であるが、単独世帯が多く、高齢化も進んでいる。

※昼間人口：就業地・通学地による人口。なお、国勢調査における人口は「常住人口(夜間人口)」

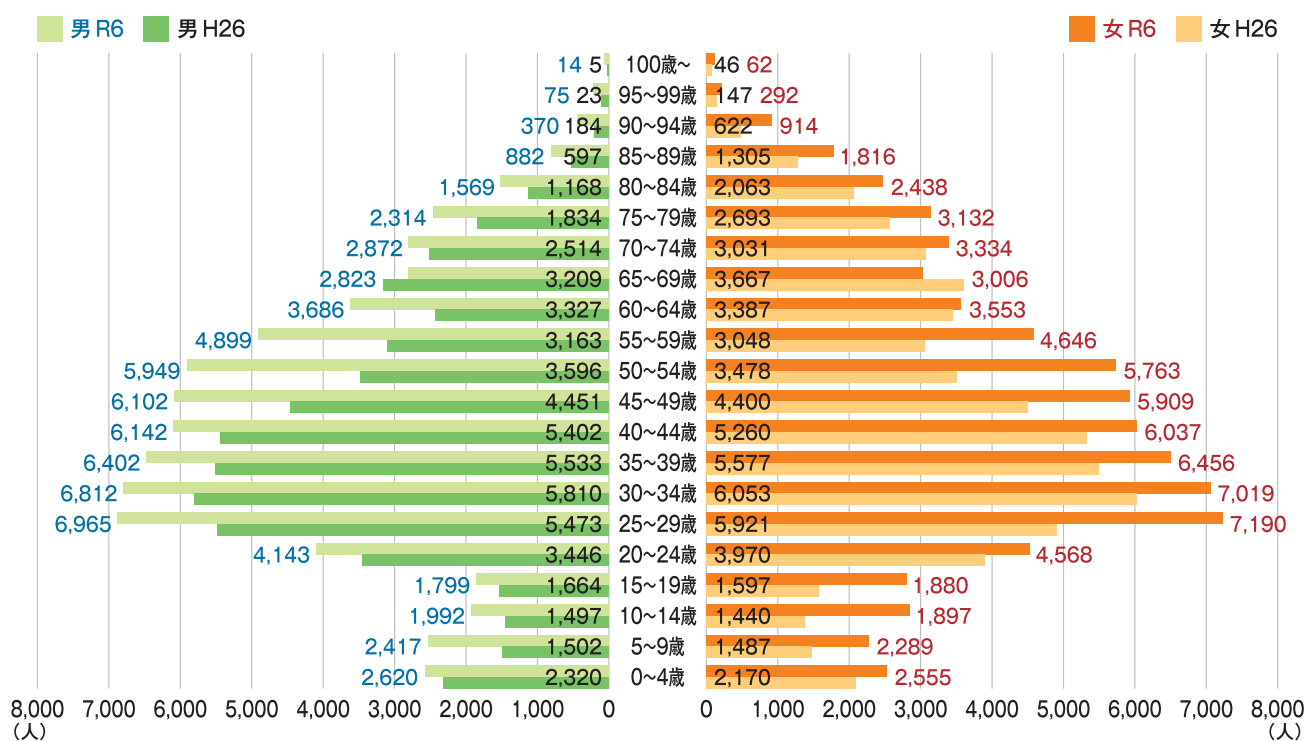
(1) 人口構造

北区の人口ピラミッドをみると、男女ともに30歳代が最も多く、15～64歳の生産年齢人口※のなかでも25歳から49歳が多い構造となっています。少子化が国レベルで進んでいますが、北区においては、未成年も人口は増加しており、年齢3区分人口(図表5)の長期的な推移をみると、すべての層で増加しています。

全体として、高齢化率が比較的低く、生産年齢人口が多いという都市型独特の人口構造となっています。

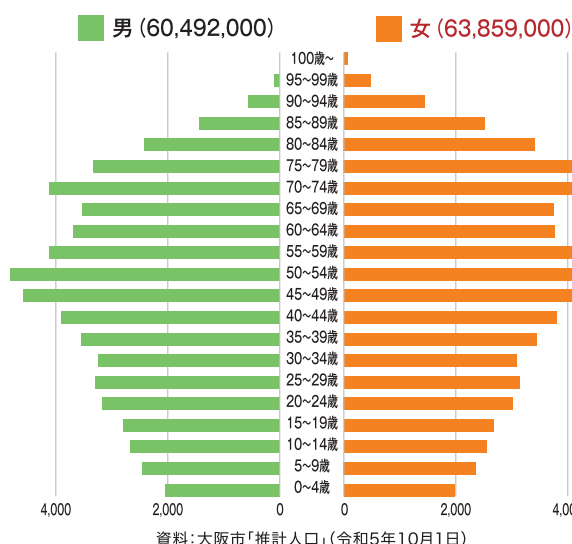
また、近年の人口の自然動態をみると、出生数が死亡数よりも多い「自然増」の状態です。図表6)社会動態については、その数の大きさから人口移動が激しい区域と言え、転入数が転出数よりも多い「社会増」の状態が続いています。(図表7)

図表2 北区の人口ピラミッド(平成26年→令和6年)

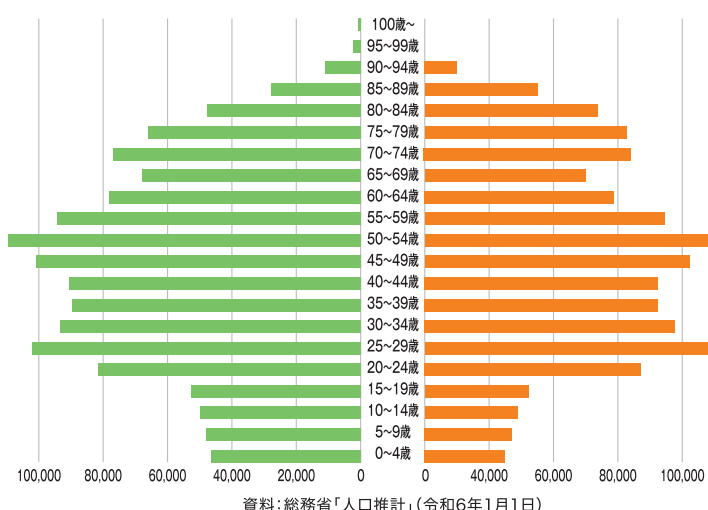


◇参考

図表3 国(令和5年)

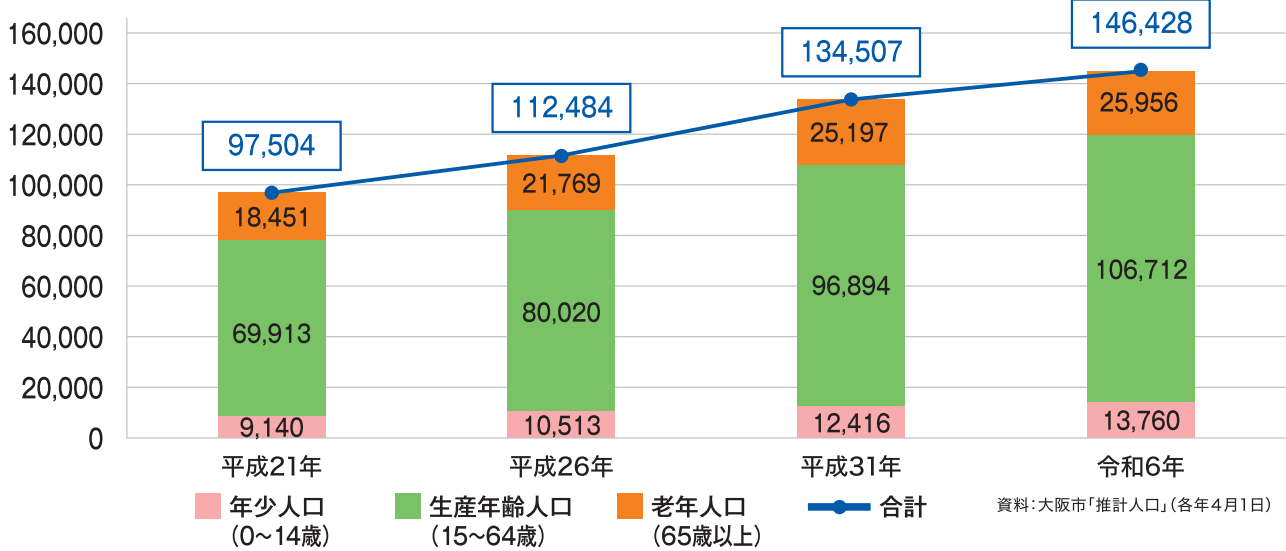


図表4 大阪府(令和6年)

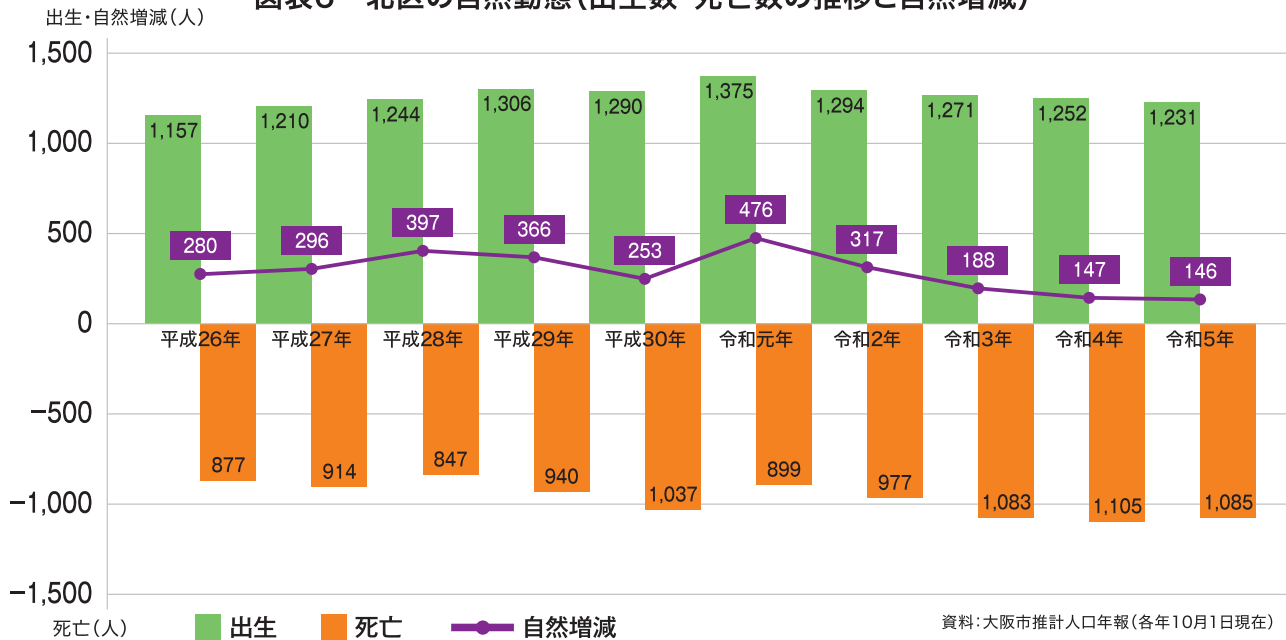


※生産年齢人口……生産活動の中心となる15歳以上65歳未満の人口

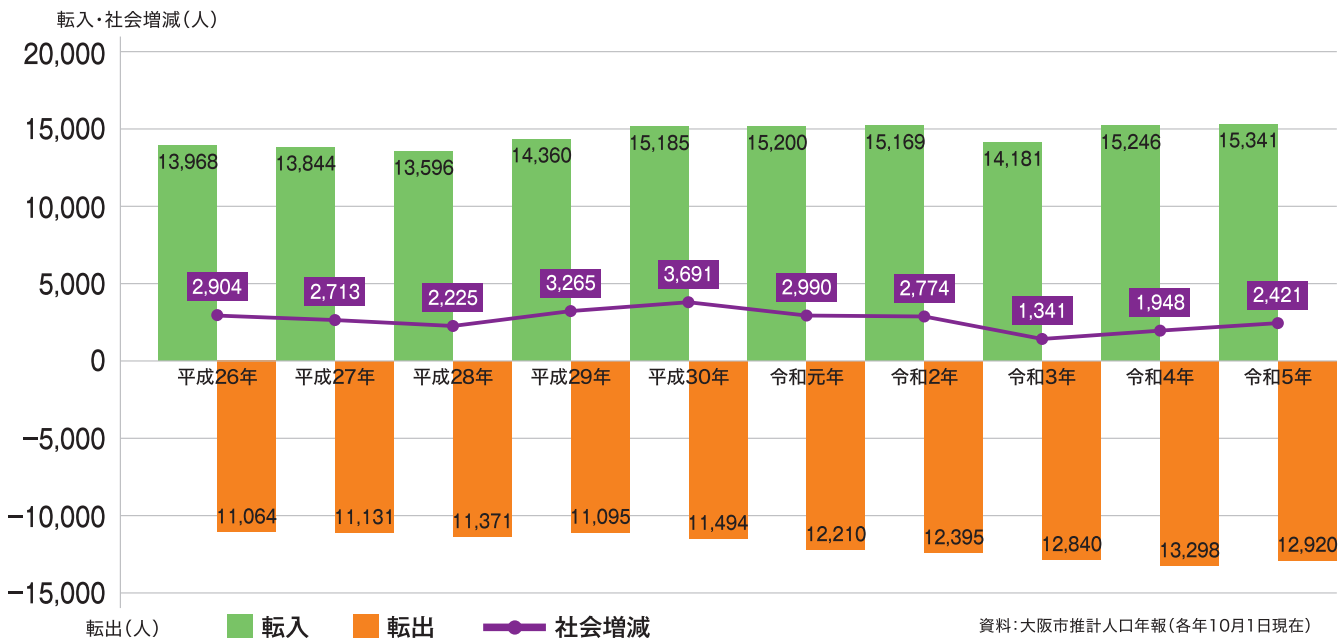
図表5 北区の人口・年齢3区分別人口及び構成比



図表6 北区の自然動態(出生数・死亡数の推移と自然増減)



図表7 北区の社会動態(転入数・転出数の推移と社会増減)

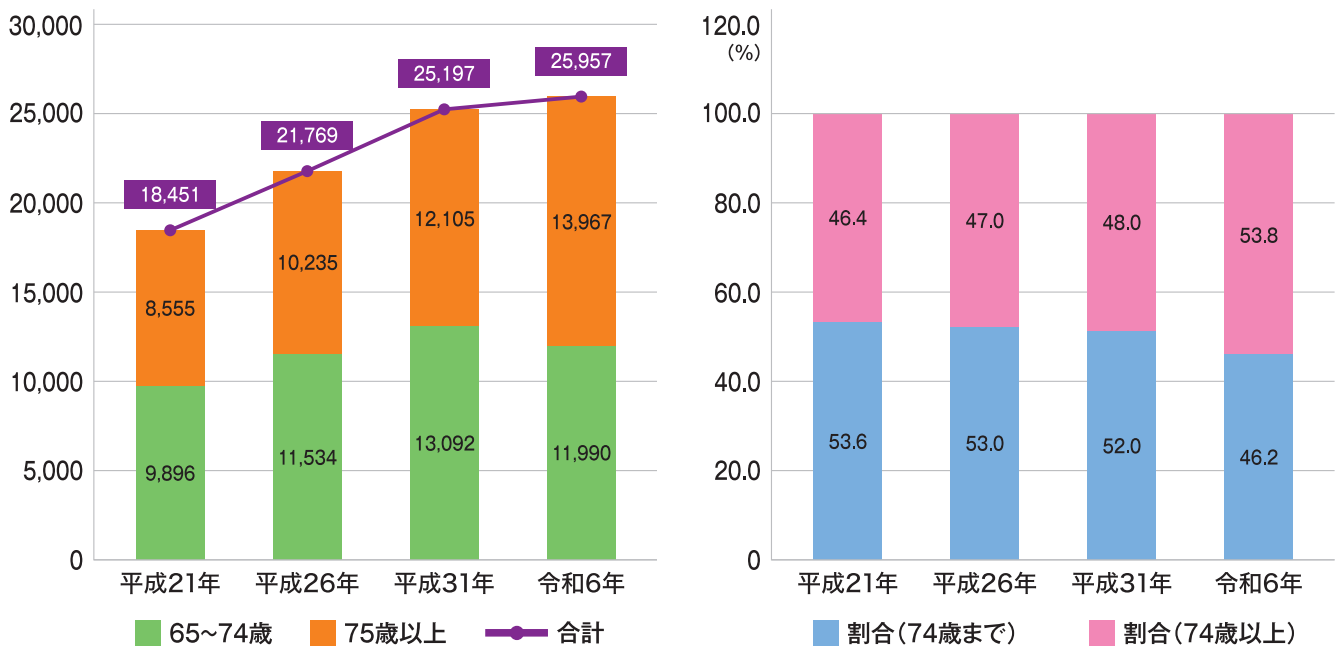


(2) 高齢者について

北区の高齢者人口は、65歳から74歳の前期高齢者、75歳以上の後期高齢者ともに増加しています。構成比をみると、前期高齢者の割合よりも、後期高齢者の割合が上昇しており、団塊の世代(昭和22～24年生まれの人)が75歳以上の後期高齢者となる令和7(2025)年に向け高齢化が進んでいます。(図表8)

国勢調査によると、65歳以上の高齢者がいる世帯において、北区の単独世帯率は44.0%で大阪市の平均ですが、全国の29.6%と比べて14ポイント高くなっています。(図表9)

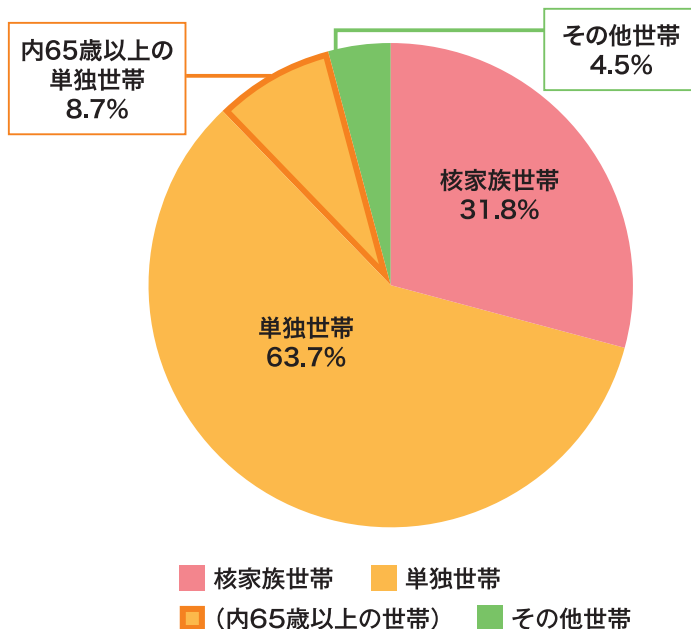
図表8 北区の高齢者数(前期・後期)の推移



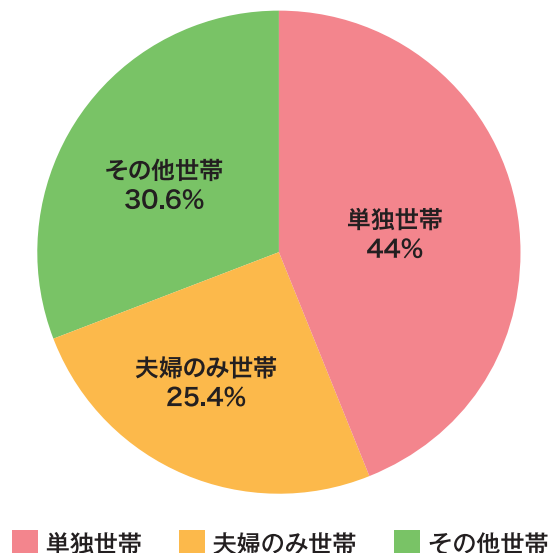
資料: 大阪市「推計人口」(各年4月1日)

図表9 北区の世帯構成

<図表9-1 北区の一般世帯構成>

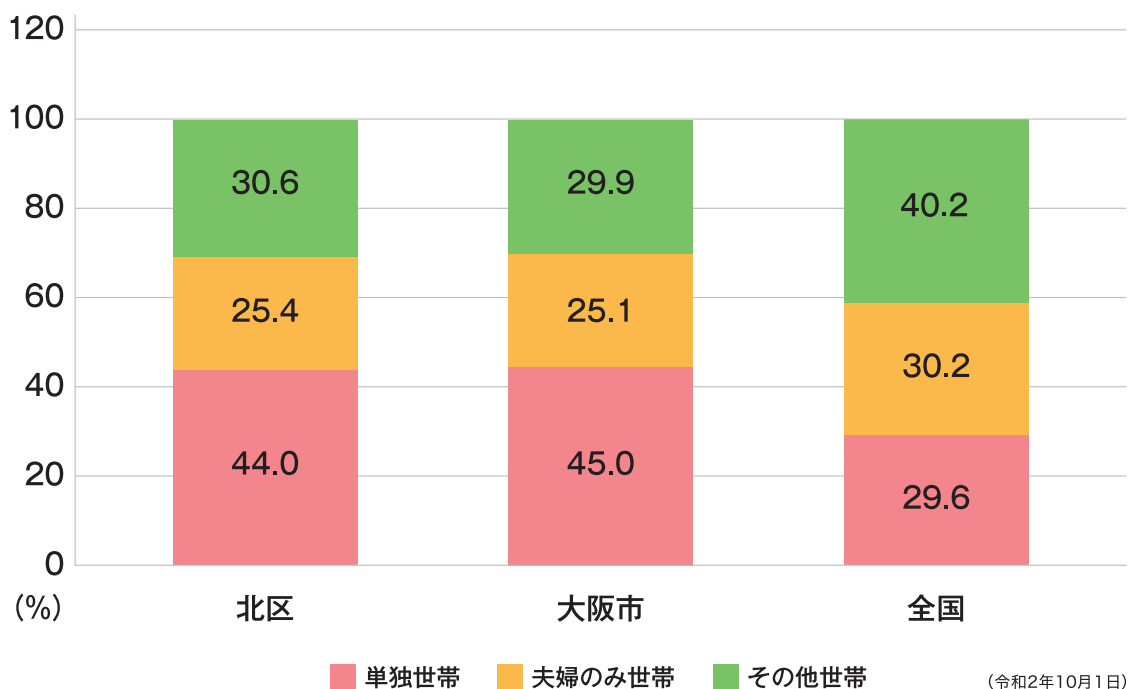


<図表9-2 65歳以上の高齢者がいる一般世帯の構成>



資料: 国勢調査(令和2年10月1日)

図表9-3 65歳以上の世帯構成(比較)



(3) 子どもについて

年齢3区分(図表5)でみた北区の年少人口比率は9.4%となっています。この年少人口を5歳階級別の比率でみると、0～4歳が36.9%、5～9歳が34.4%、10～14歳が28.7%となっています。0～9歳の割合は、国・市の値に比べて高くなっています。(図表10)

図表10 年少人口の年齢5歳階級別構成比

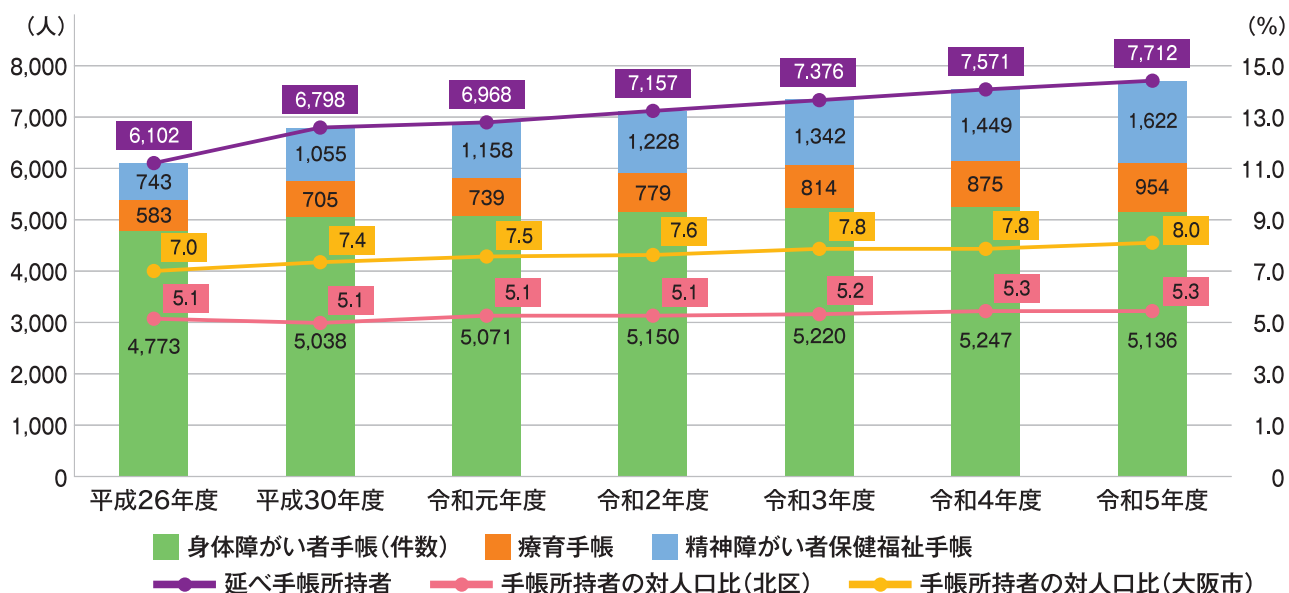


資料：大阪市「推計人口」、総務省統計局「人口推計」(令和6年4月1日)

(4) 障がい者について

北区の障がい者手帳所持者数でみると、令和5年度末の身体障がい者手帳所持者は5,136人、療育手帳所持者は954人、精神障がい者保健福祉手帳所持者は1,622人となっています。これまでの推移をみると、いずれも増え続けています。手帳の延べ所持率は、大阪市平均に比べて2.7%低くなっています。(図表11)

図表11 障がい者手帳所持者数等の推移

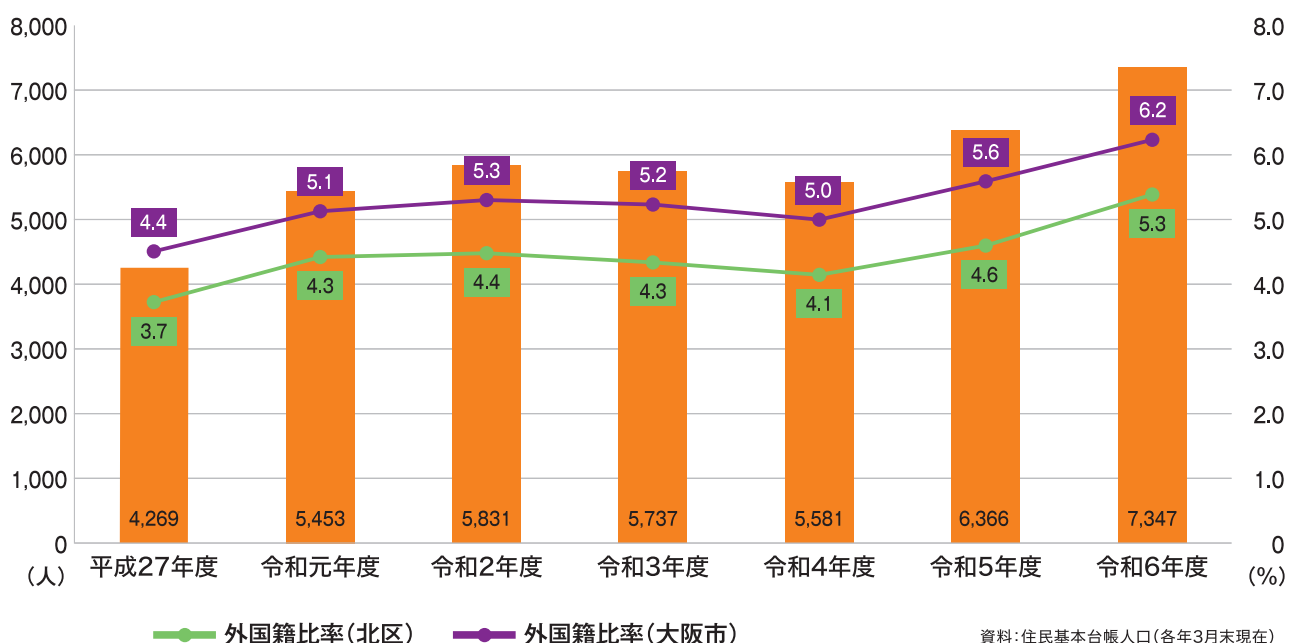


(5) 外国籍住民について

北区の外国籍住民の数は、年々増加しており、令和6年3月末現在で7,347人となっており、外国籍住民の比率(総人口に占める割合)も上昇し続けています。大阪市の比率に比べると低い値ではあるものの上昇とともに多国籍化が顕著になっています。

大阪市の割合には及ばないものの外国籍の方が増えており、多様な文化を持つ人々との関わりが増えています。(図表12)

図表12 北区の外国籍人口及び外国人比率の推移



(6) 区の特性

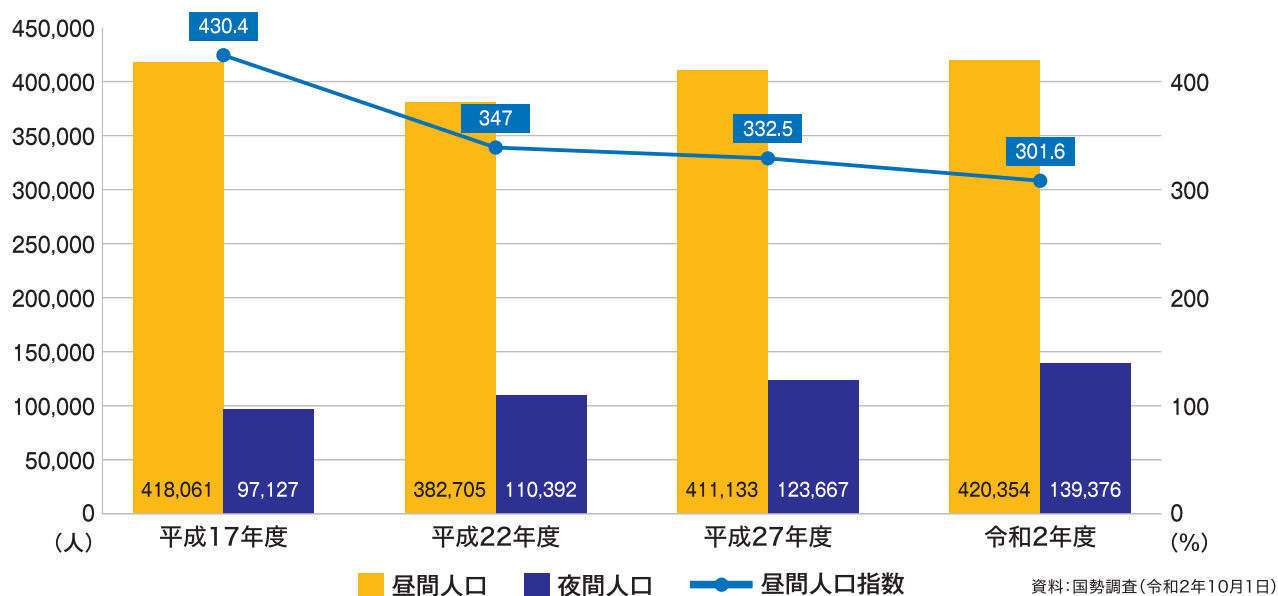
◇転出入が多く、人口異動の激しい区

北区人口は、令和6年4月1日現在で146,428人となりました。平成26年4月1日現在の112,484人(図表5)から、約34,000人増加しています。また近年は、毎年1年間に13,000人程度の人が転出しており(図表7)転入する人は転出数を上回っているため、近年は転入超過となっています。

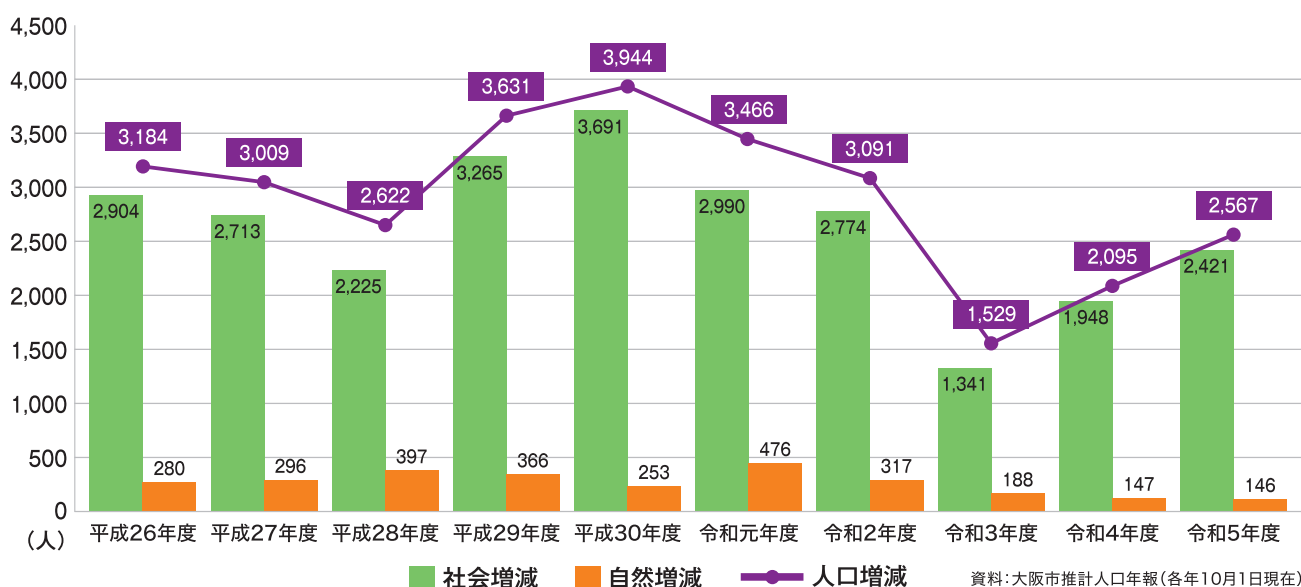
なお、昼間人口は42万人を超え、昼間人口比率は301.6%(市内で2番目)と高くなっています。平成17年の昼間人口比率は430.4%あったので居住者が増えることで比率は下がっていますが、依然高い昼夜間の人口差があります。

また、出生数が死亡数を上回る「自然増」転入数が転出数を上回る「社会増」が続いており、人口動態は増加が続いています。(11ページ図表6・7参照)(図表14)

図表13 北区の昼夜間人口比率の推移



図表14 北区の人口動態の推移



◇マンション世帯が9割

北区では住宅別世帯の割合において、マンション世帯が9割を占めており、そのうち11階建て以上の高層マンションに住む世帯が52.7%となっています。(図表16)近年、タワーマンションやICTの普及などにより、地域コミュニティを取り巻く社会環境や情報環境が大きく変化しています。それに伴い一人ひとりのライフスタイルや価値観も多様化してきました。

そうした中、人とのコミュニケーションやつながりの希薄化、地域活動の担い手不足など、多くの課題が生じています。一方で、若い世代や新たな居住者を含めてさまざまな関心やテーマに基づく新しいつながりや活動も生まれています。

図表15 北区の住宅別世帯の割合

